

背景と産業団地の必要性①

○ 現状の吉岡町～活気に溢れる町

- ✓ インターチェンジの大型車対応化などに伴う交通利便性の向上
- ✓ 県内トップクラスの人口増加率
- ✓ 子育て世代の流入・大型商業施設の進出

○ 課題

- ✓ 社会保障関係経費の増加や老朽化した施設の更新費用の増加【全国的な課題】
- ✓ 手狭となった福祉・教育関連施設の増改築の必要性【町の課題】
- ✓ 2035年をピークに人口は減少傾向となり、生産年齢人口も減少

背景と産業団地の必要性②

現状のまま続くと・・・

- 将来的な生産年齢人口の減少による地域の活力の衰退
- 持続的な財政運営が困難



産業団地整備の必要性

- ・雇用機会の拡大による、子や孫世代の若者の町外流出の抑制
- ・既存事業者の受注機会の拡大、従業員等の日常生活における消費の拡大
- ・地域住民の雇用の拡大と所得の増
- ・進出企業による各種税収の増(法人町民税、固定資産税)

企業立地の動向

- 日本の産業立地については、企業からのニーズは高まっているが産業用地の造成が追いついていない→**国による産業立地政策の強化**
- 経済産業省による工場立地動向調査においては、群馬県における工場立地件数は全国でも上位である→**令和5年第4位、令和4年第6位**
- 企業誘致における地域間競争の発生
- 工場立地は、高速インターチェンジ(高速IC)と近接して行われる傾向があり、立地件数の約半数が高速ICから5km以内の立地となっている



駒寄スマートIC西側エリアにおける産業団地事業は、

- ✓ 企業立地ニーズの高まりと供給不足
- ✓ インターチェンジに近接している
- ✓ 県中央部に位置し、上毛大橋、県道南新井・前橋線など周辺の交通網も整備されている

最適な立地、そして事業実施時期として好機